

コード No. 20-S-003

提出日：令和2年10月30日

2020（令和2）年6月～8月期「緊急ミニミニ」報告書

聖公会野宿者支援活動・渋谷

代表 楡原民佳

1. プログラムの目的

新型コロナ緊急事態宣言による炊き出しの激減に伴い、路上生活者および生活困窮者のために食事や生活の支援を行い、生活や情報不足による不安の解消の場を作る。

2. 主な活動内容・スケジュール

1) 活動内容 給食（炊き出し）と生活支援

- ・ 食事…弁当やおにぎり、ゆで卵またはやきとり缶詰、魚肉ソーセージ、お菓子（せんべい、クッキー、塩タブレットなど）、みそ汁など
- ・ 飲み物…カフェオレ、ミルクティ、コーヒー、スポーツドリンク
- ・ 生活物資…医薬品（風邪薬、胃薬、鎮痛剤、冷温シップ、ばんそうこう、塗り薬）、マスク（不織布製、手作り紙製、手作り布製）、蚊取り線香、衣類、手指を消毒するためのジェルを設置。
- ・ 生活相談…コロナウイルス感染症や特別定額給付金にかかわる情報提供や相談、生活や生活保護申請に関わる相談など

2) 対象

野宿生活者、ネットカフェ閉鎖に伴い居場所のなくなった人、解雇、収入減少などによる生活困窮者など支援を必要とする約130人。

3) スケジュール 6月～8月の水曜日7回

3. 助成を受けた活動の報告

1) 開催日と支援内容

・ 6月3日「緊急ミニミニ」

食事：炊き込みご飯、ゆで卵、魚肉ソーセージ、お菓子、みそ汁

飲み物：カフェオレ、ミルクティ、コーヒー

物資：医薬品、マスク、「てづくりぬのマスク市」

・ 6月10日「緊急ミニミニ」

食事：「ミニミニ」べんとう、ゆで卵、魚肉ソーセージ、お菓子、みそ汁

飲み物：カフェオレ、ミルクティ、コーヒー、スポーツドリンク

- 物資：医薬品、マスク、「てづくりぬのマスク市」
- ・ 6月17日「緊急ミニミニ」
 食事：「ミニミニ」べんとう、ゆで卵、魚肉ソーセージ、お菓子、みそ汁
 飲み物：カフェオレ、ミルクティ、コーヒー、スポーツドリンク
 物資：医薬品、マスク、「てづくりぬのマスク市」
 - ・ 7月8日「緊急ミニミニ」
 食事：「ミニミニ」べんとう、やきとり缶詰、魚肉ソーセージ、お菓子、みそ汁
 飲み物：カフェオレ、ミルクティ、コーヒー、スポーツドリンク
 物資：医薬品、マスク、蚊取り線香
 - ・ 7月22日「緊急ミニミニ」
 食事：「ミニミニ」べんとう、やきとり缶詰、魚肉ソーセージ、お菓子、みそ汁
 飲み物：缶の飲み物（雨天のため）…コーヒー、野菜ジュース、リンゴジュース
 物資：医薬品、マスク、蚊取り線香
 その他：特別定額給付金の支給に関する署名の呼びかけ
 - ・ 8月12日「緊急ミニミニ」
 食事：「ミニミニ」べんとう、梅おにぎり、やきとり缶詰、魚肉ソーセージ、お菓子、みそ汁、アルファ米
 飲み物： カフェオレ、ミルクティ、コーヒー、スポーツドリンク
 物資：医薬品、マスク、蚊取り線香
 - ・ 8月26日「緊急ミニミニ」
 食事：「ミニミニ」べんとう、肉団子べんとう、やきとり缶詰、魚肉ソーセージ、お菓子、みそ汁、アルファ米
 飲み物： カフェオレ、ミルクティ、コーヒー、スポーツドリンク
 物資：医薬品、マスク、蚊取り線香

2) その他、生活支援として

(1) 特別定額給付金に関する情報提供、申請同行支援、行政との折衝

- ・ 総務省給付金室への折衝（総務省）8月4日～5日
- ・ 特別定額給付金申請同行および渋谷区との折衝（渋谷区役所）
 8月17日、18日、19日、20日、21日、24日、25日

(2) 生活保護や生活に関する相談（随時）

参考資料（写真）

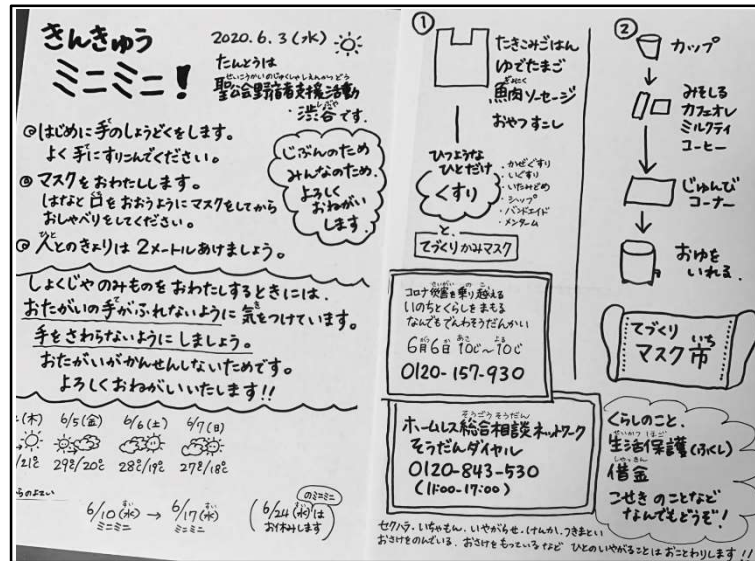


「ミニミニ」べんとう



とくべつべんとう

参加者に配布した
チラシ



4. 活動の成果 (成果物などがありましたらご紹介ください)

1) 欠くことの出来ない食事を提供できました。

炊き出し激減の中で、普段以上に食事の機会が減ってしまった野宿生活者、収入減や失業による生活困窮者などに対し、食事を提供することが出来ました。普段の活動ではお見掛けしない方々も増え、わずかながらも生活の一助になったのではないかと思います。

2) マスク、薬等を入手できない方々に物資を提供できました。

新型コロナウイルス感染防止の衛生用品が市中でも不足する中、給食に参加された全員にわずかではあるが対応することが出来ました。不織布マスクについては毎回1~2枚しか提供できませんでしたが、他所で入手できない方々にとっては貴重なものであったようです。

3) 生活相談や情報提供によって、実際に特別定額給付金を受け取れるなどの成果を得られました。

感染しても病院に行きにくい生活をしていることで命の危機を感じ不安を持っている方々が多く、相談や会話を通して情報を提供するなどして安心していただけました。

特別定額給付金に関しては、住民登録の問題から受給をあきらめている方がほとんどだったため、路上で生活する方々への支給について総務省や渋谷区と折衝し、区別なく全員に支給されるよう求めるとともに、路上生活者への情報提供、申請の呼びかけ、申請の手伝い、また交通費の支援などを行いました。結果として、あきらめていた方々の多くが受給できたことは大きな成果です。(それでも全員受給とはいかず、各自治体の対応の違いなどにより受給がかなわなかった方がいたことは、非常に残念に思っています。)

また、生活保護の申請を希望した方や、ネットカフェの閉業に伴い住まいを失った

方々の中に、福祉事務所や東京チャレンジネットの窓口で断られたケースがあり、改善要請などを行いました。

4) 助成金によって、財政的な課題を抱えることなく充実した支援を行うことができ、不安を抱く参加者にくつろぎや安心の機会を提供できました。

食品の価格が高騰していた上に、炊き出しの激減や災害保存食など中心の配布を行う団体が多くなっている中、参加者の「普通のごはんが食べたい」という声に応え、手作りのお弁当などを提供することができました。野宿生活者がなかなか口にできない「肉類」をおかずに加えることもでき、大変よろこばれました。

また、スティックの飲み物を購入できたことで、それぞれのお好みの飲み物を2～3杯楽しんでもらうことができました。

さらに、手指消毒剤、マスクなどを確保することができ、参加された方々に大変喜ばれました。

些細なことではありますが、コロナ禍でいつもにもまして見捨てられがちだった方々にとっては励ましになったようで、多くの感謝の言葉をいただいています。

5. 今後の課題

今後もコロナウィルスの問題は続き、さらに仕事や住まいを失い生活に困る方々が増えると予想しています。

加えて、昨年までとは違う状況で、生命にかかわる寒い季節が到来することもあり、厳しい活動を強いられるかもしれないと予想しています。

しかし、そのような中においても、支援者からの一方的な押しつけの活動ではなく、「ミニミニ」に集まる全員が「ともに食べる ともにいきる」仲間であるという私たちの活動の根幹を忘れることなく、手作りの一食、温かい一杯を提供したいと考えています。

そのような活動を、再び危機的な状況に陥ったとしても安定的に継続できるようにすることが、私たちの最も重要な課題であると考えています。

以上